

平成 30 年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 愛知県海部郡蟹江町】	
平成30年度に実施した取組の内容及び成果と課題	
1. 事業の実施体制	(一社)かにえ子ども日本語の会プレスクール指導者7名 小学校就学前説明会通訳等の外部協力者 4名 プレスクール事業指導者養成講座修了生協力者 2名 プレスクール指導者養成講座 当団体講師2名 外部講師 2名
2. 具体の取組内容	6月 蟹江町子ども課、各保育所所長、当団体との打ち合わせをした。プレスクール対象児の決定。 該当する子どもたちの情報交換をした ・「ひらがなたんけんたい」「ひらがなカード」等、オリジナル教材を使って、町内の各保育所において年長児、年中児の就学前指導をした。対象児は全14回～11回、全91回の指導を受けた。 対象児 年長児 10 人 年中児 5 人 7月～2月 各保育所でのプレスクール 当町委託事業先プレスクール指導者 7 名 お知らせ翻訳・説明会通訳等の外部協力者 4 名 蟹江保育所プレ・プレプレスクール15回対象児3人 新蟹江北保育所プレ・プレプレスクール14回対象児3人 蟹江西保育所 プレスクール14回対象児3人／プレプレスクール7回対象児2人 蟹江南保育所 プレスクール14回 対象児1人 舟入保育所プレスクール14回対象児1人 須成保育書プレスクール12回対象児2人 当団体オリジナル教材「たんけんたいシリーズ」にて指導 ・年長児はひらがなが読めること、自分の名前が書けることを目標とした。 ・保護者の母語に興味を持つ機会、宿題に親子で取り組む機会を促した。 ・年中児はひらがなカード、読み聞かせなどで文字に親しみを持つ機会を作った。 9月～12月 プレスクール指導者養成講座 全10回開催 受講生 11人 ・外国人児童に対する日本語指導の基礎 ・保育所でのプレスクール、小学校の日本語学級の見学 ・他地域で語学相談員として活動している外国人保護者の講義 ・模擬授業研修 10月 各小学校就学时健康診断立ち合い ・小学校に、外国人年長児の情報を伝えた。 ・外国人保護者に、小学校で引き続き当団体の支援を受けられることなどを伝えた。

3月	小学校就学前説明会開催 ・入学準備用品、学校生活等様々な事柄を通訳をつけて行った。 ・プレスクール対象児以外の外国人年長児の家庭も対象とした。
3. 成果と課題	・プレスクール成果: 対象児は全14～15回の指導で、ひらがなが読みたい、読めること、自分の名前が書けること、日常の語彙を増やすこと、数を30程まで数えられること、学校における集団生活でのルール等を身につけることという目標を達成できた。 当団体のオリジナル教材の宿題を保護者といっしょに取り組んでもらうことで、学校生活において重要な保護者の協力を促すことができた。 子ども課、小学校との連携により、入学前に外国人児童の家庭情報などを共有することができた。また、保育所に通っていない外国人転入児の保育所入所をすすめ、プレスクール指導をすることができた。 小学校就学前説明会では、それぞれの保護者の母語の通訳をつけ、入学準備を細部まで理解してもらうことができ、不安を解消することができた。また、子ども課、教育課との連携により、入学直前転入の外国人家庭にも参加してもらうことができ、入学前に保護者と小学校をつなげることに貢献できた。 ・プレスクール課題: プレプレスクール(年中児対象)では、1時間いすに座ってられない、集団では指示がなかなか通じないなどの困り感のある子どももいる。プレスクールの少人数・個別指導により、課題の見極めをして、保育所との連携、また小学校での指導に良い形でつなげていくことが望まれる。 保育所に入所していない外国人児童のいる家庭に、入所を促す働きかけが継続して必要である。 小学校入学直前の転入児について、子ども課、教育課と連携して、小学校就学前説明会への参加を促すことも継続して必要である。 ・プレスクール指導者養成講座成果: この養成講座は、地域社会での重要性を伺わせた。今年度も多くの外国人児童生徒の転入があったことから、増加が予想されるので、支援者の確保ができた。また、受講生は、地域在住であり、地域とのネットワーク作りに貢献できた。当町委託事業「夏休み宿題教室」「小学校就学前説明会」に協力してもらった。今後の即戦力として、講座の知識を生かしプレスクール事業の指導者になってもらう予定である。地域の人材が指導者になることは、今後、地域との連携の強化に繋がる。 ・プレスクール指導者養成講座課題: 地域の指導者を育成することで、当団体の活動を広く知ってもらうことができ、地域との連携をより深めることができる。今後も当団体が地域のコーディネーターとして、蟹江町が外国人住民と地域住民と共に生きていく多文化共生社会のモデルとなっていくことに貢献していきたい。 今回をもち、次年度は講座開催をしない。指導者数の確保ができたと思われる。しかしながら、支援者数は、外国人児童生徒の増加、支援者の途中辞任、町職員定年制の実施により、支援者の不足に悩まされることのないよう、実態を把握することが必要である。
4. その他(今後の取組等)	・町内小中学校では、今年度相変わらず、外国人児童生徒の転入があったことから、蟹江町の外国人住民数の推移は今後も増加が予想される。プレスクール事業は継続して行っていくことが不可欠である。 ・保育所に入所していない外国人未就学児の把握に、各課と連携して取り組んでいきたい。 ・3歳健診に訪れる外国人家庭の保護者に、保育所へ入所をすすめ、プレスクールの利点を伝えたい。 ・保育所の他、この地域の幼稚園と協力し、幼稚園でもプレスクール実施の必要性がある。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)